

出品作品リスト

No	作品名	作者名	産地・時代	品質	法量(cm)	コレクション
1	『左羅紗便覽』	蓬萊山人 帰橋 (生没年不詳)	江戸時代 安永7年 (1778)	紙本木版	26.1×17.3	
2	インド更紗貼交布		インド 17-19世紀	木綿	30.3×21.7	
3	インド更紗貼交布		インド 17-19世紀	木綿	30.3×21.7	
4	花文様更紗製		インド 18世紀	木綿	30.3×21.7	
5	建築文様更紗製		インド 16世紀	木綿	30.3×21.7	
6	クリシュナ物語図印金更紗壁掛		インド 17-18世紀	木綿	128.5×110.8	
7	グリンシン文様更紗儀礼用布		インド 18世紀	木綿	323.0×229.0	
8	幾何学文様絹縫更紗儀礼用布		インド 16-17世紀	木綿	546.0×96.9	
9	ヴェッサンタラ太子物語図縫緝儀礼用布		カンボジア 19-20世紀	絹	313.0×84.9	
10	三界經図縫緝儀礼用布		カンボジア 19世紀	絹	145.0×91.0	
11	樹木文様縫緝儀礼用布		カンボジア 19-20世紀	絹	247.5×91.5	
12	生命樹動物文様縫緝儀礼用布		カンボジア 19世紀	絹	327.5×98.0	
13	よつししんようきもの縫緝腰帯		カンボジア 19-20世紀	絹	315.5×92.0	
14	建葉文様絞り儀礼用布		カンボジア 19-20世紀	絹	183.6×76.5	
15	花星文様縫緝儀礼用布		カンボジア 19-20世紀	絹	161.0×83.6	
16	花文様縫花星文様縫緝女性用肩掛		インドネシア・スマトラ島・ パレンバン 19-20世紀	絹、撲金糸	227.0×84.0	クスマ・コレクション
17	菱格子花文様刺繡女性用婚礼チュニック		インドネシア・スマトラ島・ パレンバン 19-20世紀	綿ビロード、 撲金糸、刺繡 用絹糸	94.0×143.0	クスマ・コレクション
18	菱形幾何学文様縫緝肩掛／頭巾	ミナンカバウ人	インドネシア・スマトラ島・ ルハク・タナ・ダタル 19-20世紀	木綿、絹、撲 金糸	170.8×61.2	クスマ・コレクション
19	幾何学文様絹縫緝儀礼用布	トバ・バタック人	インドネシア・スマトラ島・ 北タバヌリ 19-20世紀	木綿	215.5×95.0	クスマ・コレクション
20	ガルーダ草花文様更紗女性用胸当		インドネシア・中部ジャワ 20世紀前期	木綿	249.0×50.5	クスマ・コレクション
21	鳳凰草花文様更紗腰布		インドネシア・ジャワ島・ ラスム 19-20世紀	木綿	252.2×105.2	クスマ・コレクション
22	鯨紗絞形斜線文様更紗腰布		インドネシア・ジャワ島・ チレボン 19-20世紀	木綿	266.6×107.1	クスマ・コレクション
23	オランダ遊覧船文様更紗腰布		インドネシア・ジャワ島・ ブカラングン 20世紀前期	木綿	234.5×103.5	クスマ・コレクション
24	友禪花鳥文様更紗腰布		インドネシア・ジャワ島・ ブカラングン 20世紀前期	木綿	240.0×106.0	クスマ・コレクション

- 都合により展示作品を変更する場合があります。
- 出品No. 7～16, 18～24の法量については、経糸方向・緯糸方向の順で記載しており、見た目上の縦横とは一致しないことがあります。

List of Exhibits

No	Title	Artist	Place of production/Period	Material	Size(cm)	Collection
1	Sarasa Benran (Design sample book for sarasa)	Horaisanjin Kikyo (?-?)	Japan, dated 1778	wood block print on paper	26.1×17.3	
2	Cloth pasted with sarasa fragments		India, 17th -19th century	cotton	30.3×21.7	
3	Cloth pasted with sarasa fragments		India, 17th -19th century	cotton	30.3×21.7	
4	Sarasa fragment, design of flower		India, 18th century	cotton	30.3×21.7	
5	Sarasa fragment, design of building		India, 16th century	cotton	30.3×21.7	
6	Hanging with a scene from the tales of Krishna, with gold embellishment		India, 17th -18th century	cotton	128.5×110.8	
7	Ceremonial cloth, Geringsing pattern		India, 18th century	cotton	323.0×229.0	
8	Ceremonial cloth, geometric pattern		India, 16th -17th century	cotton	546.0×96.9	
9	Pidan (Ceremonial cloth), design of the tale of Prince Vessantara		Cambodia, 19th -20th century	silk	313.0×84.9	
10	Pidan (Ceremonial cloth), design of the Three Worlds Sutra		Cambodia, 19th century	silk	145.0×91.0	
11	Pidan (Ceremonial cloth), design of tree-of-life		Cambodia, 19th -20th century	silk	247.5×91.5	
12	Pidan (Ceremonial cloth), design of tree-of-life, naga, and animal		Cambodia, 19th century	silk	327.5×98.0	
13	Sampot Chawng Kbn (Skirt-cloth), design of four-petal flower		Cambodia, 19th -20th century	silk	315.5×92.0	
14	Ceremonial cloth, design of building		Cambodia, 19th -20th century	silk	183.6×76.5	
15	Ceremonial cloth, star and floral pattern		Cambodia, 19th -20th century	silk	161.0×83.6	
16	Selendang Limar Songket Lepus (Woman's shoulder-cloth), star and floral pattern		Palembang, Sumatra, Indonesia, 19th -20th century	silk, gold-wrapped thread	227.0×84.0	Kusuma Collection
17	Baju Kurung (Woman's wedding tunic), diamond lattice pattern		Palembang, Sumatra, Indonesia, 19th -20th century	cotton velvet, gold-wrapped thread, embroidery silk thread	94.0×143.0	Kusuma Collection
18	Selendang Basahi Hitam (Shoulder- or head-cloth), geometric pattern	Minangkabau	Luhak Tanah Datar, Sumatra, Indonesia, 19th -20th century	cotton, silk, gold-wrapped thread	170.8×61.2	Kusuma Collection
19	Ulos Pinunsaan (Ceremonial cloth for clothing), geometric pattern	Toba-Batak	North Tapanuli, Sumatra, Indonesia, 19th -20th century	cotton	215.5×95.0	Kusuma Collection
20	Kemben (Woman's breast-cloth), design of Garuda and flower		Central Java, Indonesia, early 20th century	cotton	249.0×50.5	Kusuma Collection
21	Kain Panjang (Skirt-cloth), design of Chinese auspicious omen		Lasem, Java, Indonesia, 19th -20th century	cotton	252.2×105.2	Kusuma Collection
22	Kain Panjang (Skirt-cloth), design of fabulous fish with fret pattern		Cirebon, Java, Indonesia, 19th -20th century	cotton	266.6×107.1	Kusuma Collection
23	Kain Panjang (Skirt-cloth), design of Dutch excursion boat		Pekalongan, Java, Indonesia, early 20th century	cotton	234.5×103.5	Kusuma Collection
24	Kain Panjang (Skirt-cloth), design of flower and bird		Pekalongan, Java, Indonesia, early 20th century	cotton	240.0×106.0	Kusuma Collection

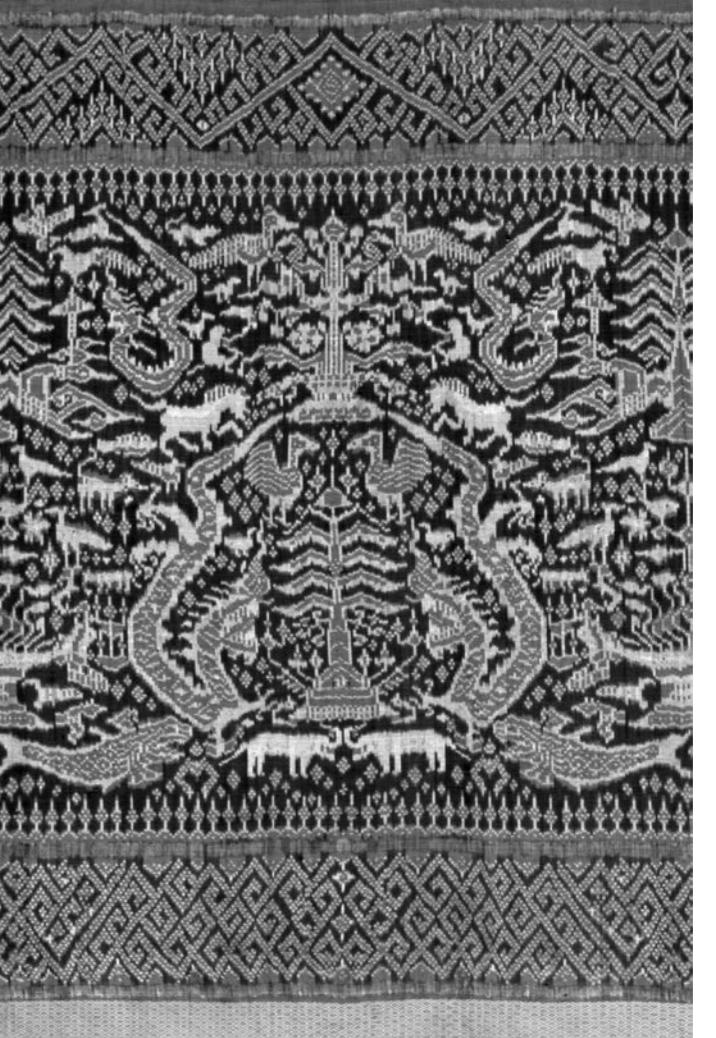
- 都合により展示作品を変更する場合があります。
- 出品No. 7～16, 18～24の法量については、経糸方向・緯糸方向の順で記載しており、見た目上の縦横とは一致しないことがあります。

アジアの染織 インド、インドネシア、カンボジア

Textiles of Asia: India, Indonesia, and Cambodia

会期 2024年2月20日(火)-4月21日(日)

会場 古美術企画展示室



出品No.12 生命樹動物文様縫緝儀礼用布(部分) カンボジア 19世紀

それぞれの風土に根ざし、他文化との交流から育まれた染織は、身近な工芸品として時代を超えて人々に愛されてきました。当館の豊かな染織コレクションから、南アジア・東南アジアの名品を紹介します

インド

インドと言えば、カレーと映画。そんなイメージを抱く方も多いかもしれません。実はこの国は染織大国でもあります。染め・織り・刺繡のいずれの分野でも卓越した技法が見られるインドは、アジアの国々、とりわけ東南アジア諸国の染織文化に大きな影響を与えてきました。とくに、茜や藍などの染料を用い、手描きあるいは木版や銅板によって文様を染め出したインドの木綿布は二千年もの歴史を誇り、その堅牢な染色の美しさは、紀元後まもなくには地中海地域まで広く知られていたといいます。これらの木綿布は、早くから貿易品としてエジプトや中東、東南アジアなど様々な地域に運ばれていき、日本では「更紗」と呼ばれるようになりました。

描かれており、**作品8**と同様、インド東部のコローデル海岸で作られたと考えられます。

ンボジア

ンコール・ワットなどの遺跡で知られるカンボジア、インドシナ半島の南寄りに位置します。アンコール朝時代には、インドシナ半島の大部分を勢力下げるほどの栄華を誇りました。インドやタイなど高度な技術を取り入れたカンボジアでは、優れた文化が生み出されてきました。

カンボジアには木綿や絹による様々な技法の染織がありますが、なかでも、絹の縞紗は括り技術の精密発色の美しさにおいて、アジアの紗の中でも群をた存在です。紗とは、経糸や緯糸を部分的に括つめることで文様を織り出す技法です。用いる色数って何度も糸を括つては染め、解いてはまた括るう作業を繰り返し、その糸を使用して織物に文様します。このようにカンボジアの紗には、鮮やか彩と高度な括り技術により、具象的で表現力に富んだ文様が描かれてきました。とくに、「ピダン」と呼

る儀礼用布は絵画的な美しさで知られます。ダンにはいくつかの特徴的なテーマやモチーフがれます。例えば、カンボジアをはじめとするインナ半島諸国に伝來した仏教の世界観を表したもの（作品9、10）が知られています。またアニミズムあるいはヒンドゥー的世界観を表すモチーフとして、生（作品11）や精霊、様々な動物を描いた作品が

ます。とくに、蛇のような姿をした想像上の生物がは染織に頻繁に見られるモチーフです。カンボの建国神話にも登場し、国のシンボルともいえる方は、《生命樹動物文様緯絣儀礼用布》(作品12)生命樹を守護する姿で描かれます。

ンボジアの絹の美しさは、ピダンだけではなく
「サンポット」と呼ばれる腰布にも見ることができます
サンポットに見られる文様の種類は200種類以上
ぶとされますが、ここでも目を引くのはナーガの
一つです。ナーガは具象的に表現されるだけでな
単純な幾何学文様に還元されることもあります。
《文様緯絣腰布》(作品13)に見られる四弁の花
り囲む、先が鉤型になったV字と逆V字の文様も、
それが双頭のナーガであると考えられます。

た、カンボジアでは絞り染めや紋織も制作されま
。カンボジアの絞りには大きく分けて二系統あり、
一つは茶や藍色を基調とし、中央部に大きく文様を
、末端部に鋸歯文様を表したものです。もうひと
色調がより華やかで、中国からの輸入布を用いる
多いのを特徴とし、イスラム教徒である少数民族
ム人によるものとされます。前者に含まれる作品
には、実際にカンボジアでつけられる屋根飾りを
、建築物の特徴が細やかに表現されています。一
紋織は、多様な織り方を組み合わせたり色糸を用
文様を表す技法です。《花星文様縞紋織儀礼用布》

、八角星と八弁の花のモチーフが紋織
これはインドネシアやマレーシアの紋
される文様で、カンボジアとイスラム
世界のつながりを示す貴重な作品です。

۲۰

たジャワ北文化などかかりました。時期に中国

西端に位置するスマトラ島は、その地古来より外来の文化や宗教の受け入れでした。このような背景のもとで様々なされたスマトラ島には、とくに、絹を用が多種にわたって見られます。南スマレンバンは、とりわけ華やかで精巧なこととぞれで知られます。赤や紫など鮮明とする縞には、多くの場合金糸が織り込まれた優美さをたたえています（作品スマトラ州に住むミナンカバウ人の間で幾何学文様が、その象徴的な意味と共にました。彼らが制作する紋織の頭巾やは金糸銀糸をふんだんに用いた豪華シカバウ人の豊かさを物語っています。ラ州で制作される渋い色調の木綿の織絹織物が多いスマトラ島では異色の存

のような中作しました
るブカロンベースにの
かで多種多
ンダ遊覧船
とりわけヨ
街灯、戦争に表されま
コウカイ（
わせる豪華作されまし
軍政下のジ
カイン・ホ
二通りに着
レ（朝夕）」

おわりに

本展で紹
品の保存環
それでも、
保管、伝承
りわけ大切
染織品に刻
史、そして

うけつ染めが盛んに行われてきました。東された文様が描かれたバティックは、染織を代表するもののひとつと言えます。染めとは、蝶と染料を使って布地の上に模様をいいます。蝶は水分を弾く性質があるため、蝶で文様を描くと、染料の溶液に浸すと、置いた部分は白く染め残ります。その工程で、器具や型を使って蝶を布に置き、染色するという工程を繰り返し、文様を作ります。亀裂によって生まれる多彩な表情も見

かでも、地域によってバティックの色
ります。ジョグジャカルタなど、王宮
ヤワの町で作られたバティックは、茶
を特徴とし、多種にわたる伝統的文様
。人々の信仰や宇宙観が込められたこ
徴性が強く、厳しい使用規定がある場

- の染織／コ
- ・『カンボジ
- ・『木綿の島
- コレクシヨ
- ・『インドネ
- クション／
- ・『更紗の時

ません。現在、インドネシアでは王家
人がイスラム教を信奉していますが、
ドゥー思想とジャワ土着文化は根強く、
るヒンドゥー教の靈鳥ガルーダも伝
つです。

ら外来文化の影響を真っ先に受けてきた方では、中国やイスラム、ヨーロッパの思想を得た、多彩で写実的な様式が発達した。かな茜染めで知られるラスムは、古い大量移民があったと言われ、**作品21**の文様を描いた精緻なバティックを制作し、別名「バティックの町」と呼ばれます。化学染料をいち早く利用し、商業デザインを積極的に手掛けた結果、華やかなバティックを生み出しました。《オランダ更紗腰布》(作品23)が示すように、バティックの文物は、楽器やチューリップ、花、天使など多様なものがバティックです。プカロンガンでは、「カイン・ホウ会の布」と呼ばれる、日本友禅を思考する鳥文様のバティック(作品24)も制作されました。奉公会とは、第2次世界大戦中、日本で結成された政治翼賛会のことです。クカイの多くは、一枚のバティックを用いるよう柄を途中で切り替えた「パギソ」と呼ばれるスタイルをとります。

(掌管課 木田昌耶)

— 参考文献 —

館の展覧会図録を、2階の美術情報コーナーで見ることができます。もっと知りたい方はぜひご覧ください。

- の更紗－エイコ・クスマ・コレクション
逢いの宇宙－インドネシア・スマトラ島
・クスマ・コレクション』(1999)
染織』(2003)
『インドネシアの染織／エイコ・クスマ・
』(2003)
・スラウェシ島の染織 一日下部啓子コレ
る布の系譜－』(2006)
2014)

関連地域地図

